

問題 C

問 1. 嚥下運動における舌の機能を説明する以下の文章をよく読んで、準備期(咀嚼期)の嚥下運動とは直接には関係があるものはどれかを選びなさい

- a 形成された食塊を咽頭に送り込む
- b 口腔に取り込まれる食物の性状を確認する
- c 嚥下反射を誘発する
- d 咀嚼された食塊を口腔内で唾液と混和する
- e 捕食された食物を臼歯の上に運び、保持する

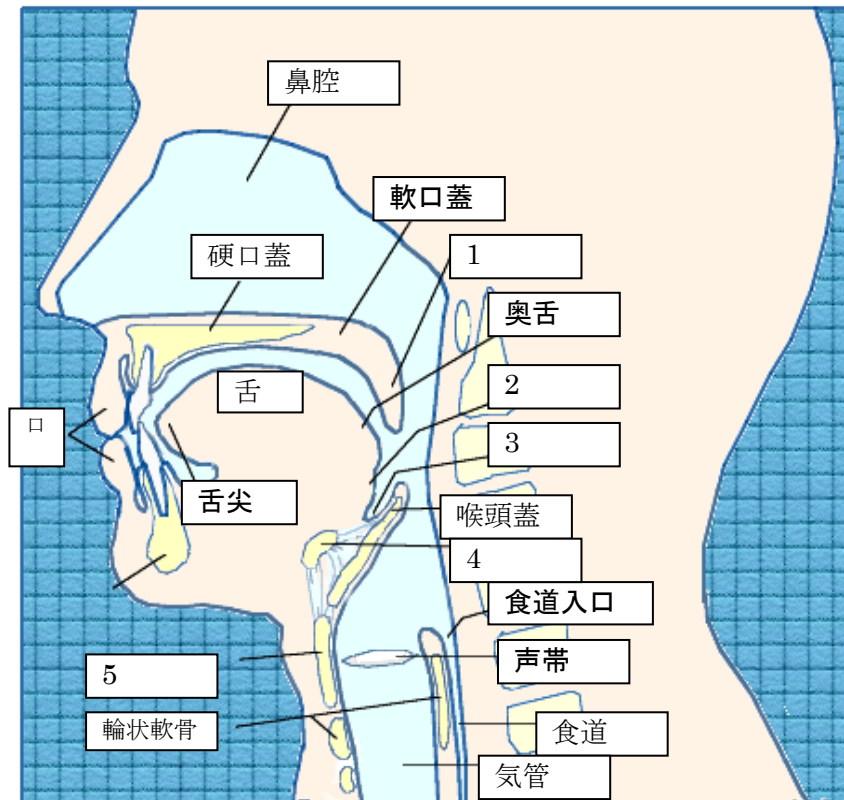
1 a.b.e 2 b.d.e 3 c.e 4 a.c.e 5 b.d

問 2. 次のうち外舌筋はどれか、正しい組み合わせを選びなさい

- a オトガイ舌筋
- b 茎突舌筋
- c 舌骨舌筋
- d 縦舌筋
- e 垂直舌筋

1 a.b.c 2 b.c.e 3 c.d.e 4 a.b.d 5 a.c.d

問 3. 以下の顔面矢状断の図譜の空欄を解剖学的名称で埋めなさい。



問題 C

問 4. 嚥下機能について誤っているものを選びなさい

1. 正常な口腔期では鼻咽腔が閉鎖される
2. 咽頭期障害ではむせの有無を観察する
3. 正常な咽頭期では舌骨が挙上する
4. 口腔期障害では舌機能が問題となる
5. 正常な咽頭期は喉頭蓋が上方へ回転して始まる

問 5. 嚥下に関与する筋群について、誤っている組み合わせを選びなさい

1. 輪状咽頭筋 —— 三叉神経
2. オトガイ舌骨筋 —— 舌下神経
3. 上咽頭収縮筋 —— 迷走神経
4. 側頭筋 —— 三叉神経
5. 口輪筋 —— 顔面神経

問 6. 舌について誤っているものを選びなさい

1. 舌根とは舌の付け根で、舌後半1/3の部分である
2. 舌体とは舌前方2/3の部分で、味覚や舌触りを感じる
3. 捕食された食物を臼歯の上に運び保持する
4. 口裂を閉じて、食物が口腔外へ漏れるのを防ぐ
5. 複雑な構音に寄与する

問 7. 嚥下に関連する脳神経のうち関係のないものを一つ選べ

1. 舌下神経
2. 迷走神経
3. 三叉神経
4. 舌咽神経
5. 滑車神経

問 8. 開口時に直視できないのはどこか。

1. 舌根
2. 上咽頭
3. 舌背
4. 口蓋垂
5. 歯肉

問題 C

問 9. 嚥下障害への悪影響が最も少ない薬剤はどれか

1. 向精神病薬(メジャーランキライザー)
2. 抗痙攣薬
3. ACE阻害薬
4. 筋弛緩薬
5. 頻尿改善薬

問 10. 不顕性誤嚥を疑う症状として不適切なものを選びなさい

1. 食事摂取に時間がかかるようになった
2. 一度に頬張って食べるようになった
3. 痰がからんだような咳をすることが多くなった
4. 食事量が減ってきたり、体重が減ってきた
5. 最近何度か肺炎で入退院を繰り返した

問 11. 脳血管障害による嚥下障害で正しくないものを選びなさい

1. 延髄など脳幹病変の場合は高率に嚥下障害をきたす
2. 両側大脳基底核に病変を認めた場合、嚥下障害をきたしやすい
3. 深部白質病変では舌の協調運動障害によって嚥下障害をきたす
4. 一側性の脳血管障害では、嚥下障害はみられない
5. 中脳から延髄までの病変では上下肢の麻痺と反対側の脳神経麻痺がみられることがある

問 12. 嚥下機能障害に最も関連が深いとされる理学所見はどれか選びなさい

1. マイヤーソン徴候陰性
2. 人形の目現象陽性
3. 吸引反射(吸てつ反射)陰性
4. アキレス腱反射陽性
5. 軟口蓋反射陰性

問 13. 誤嚥に対する処置で誤っているものはどれか

1. 食物の粘度を調整する
2. 喉頭全摘を行う
3. 喉頭挙上を図る
4. 声門閉鎖を行う
5. 嚥下姿勢を修正する

問題 C

問 14. 高齢者嚥下障害の特徴はどれか、正しい組み合わせを選びなさい

- a. 女性に多い
- b. 咽頭残留が多い
- c. 不顕性誤嚥が多い
- d. 安静時の喉頭の位置が低位である
- e. 口腔期障害は軽度である

- 1. a ,b, c
- 2. a, b, e
- 3. a, d, e
- 4. b, c, d
- 5. c, d, e

問 15. 以下は嚥下障害を疑う臨牀所見について述べてある。文章をよく読んで、嚥下障害とは直接には関係が無いと思われる病態の組み合わせを選びなさい

- a 口唇からうまく取り込めない，流涎がある，口唇から食物がこぼれる
- b 血清Albminが低下する
- c 話が聞き取りにくい，声が鼻に抜ける，水分や食べ物が鼻から出てくる，声がかすれる
- d 呼吸数が増加する。
- e 飲み込めるが喉に残る，食道が開かない
- f 痰が出せない，咳がうまく出来ない

- 1 a.c 2 b.d 3 c.e 4 d.e 5 e.f

問 16. 下記の記述の中から正しい組合せを選びなさい

- a 嚥下運動は3段階に分けることができる.
- b 嚥下運動の第1相は不随意期である.
- c 正常嚥下の第2相は約2秒で終わる.
- d 嚥下障害は動的障害と静的障害とに分けられる.
- e 嚥下の第1相の障害は第2相にも影響を及ぼす.

- 1 a.b.c 2 a.d.e 3 b.c.e 4 b.d.e 5 c.d.e

問題 C

問 17. 摂食嚥下過程の5期を順に記載しなさい

1. 第1期 () 又は ()
2. 第2期 () 又は ()
3. 第3期 ()
4. 第4期 ()
5. 第5期 ()

問 18. 嚥下についての記述で、正しいものを選びなさい

1. 口腔内の食塊は反射運動で咽頭へ送られる
2. 軟口蓋が拳上すると咽頭と鼻腔の通路が開く
3. 食道期の食塊移動は蠕動運動によって送られる
4. 食塊が食道に入る時期に呼吸が促進される
5. 喉頭蓋が引き上げられて気道が閉鎖される

問 19. 老化に伴う嚥下機能低下の原因として誤っているものを選びなさい

1. 唾液の性状・量の変化
2. 味覚の変化
3. 注意力の向上
4. 喉頭が下降し、嚥下反射時に喉頭拳上距離が大きくなる
5. 無症候性の脳梗塞の存在

問 20. 嚥下後の下咽頭の食塊残留が示唆するものはどれか選びなさい

1. 咽頭期誤嚥の惹起不全
2. 喉頭蓋の倒れ込み障害
3. 食道入口部の狭窄
4. 食塊が喉頭から気管に入る前駆症状
5. 正常な老化現象

問 21. 正常嚥下時に認められないのはどれか選びなさい

1. 食塊形成
2. 鼻咽腔閉鎖
3. 喉頭拳上
4. 喉頭閉鎖
5. 胸腔内圧上昇